「故郷（ふるさと）の海レスキュー隊計画 2014」報告書

◆活動実施日　：平成２６年８月２８日（水曜日）
◆活動実施場所：高松市沖男木島東側備讃瀬戸辺海域
　　高松市男木町大井海水浴場
　　高松市男木コミュニティセンター２階大ホール
◆参　加　者　：高松市立第一中学校１年生・２年生４４名・教職員３名　計４７名
◆協力団体　　：男木地区コミュニティ協議会、東瀬戸漁業協同組合
　　高松市男木出張所、公財）水島地域環境再生財団（みずしま財団）
◆活動実施概要：

①東瀬戸漁業協同組合所属の漁師さんによる底曳網漁を視察・見学し海底ごみの実態について学習しました。

②男木地区コミュニティ協議会の皆さんの協力を得て、参加者全員により男木大井海水浴場一斉清掃とＩＣＣゴミ調査を行い、海ごみの実態把握体験学習を実施しました。

③高松市男木コミュニティセンターで、午前中の海底ごみ視察と海岸漂着ごみ体験学習を基に、みずしま財団の磯部 作先生及び塩飽敏史先生を講師として、海ごみ問題について総合環境座学学習会を開催しました。

◎高松市立第一中学校　午前８時４０分集合

「参加者４４名全員に中條隊長より「故郷の海レスキュー隊」１日隊員任命委嘱」

◎高松港県営第二桟橋より海上タクシー乗船　午前９時２０分出航

「レスキュー隊員海上タクシーに乗船して出動」

◎東瀬戸漁業協同組合所属・底曳網漁見学視察　午前９時４０分

底曳き網を漁師が開放すると、魚介類と沢山のゴミ（時計・卓上ガスコンロ・１升瓶等）に大きな歓声と、ため息が入り混じりました。

「魚介類とゴミを分別する漁師さん」

「回収ゴミは、香川県主導の海底ゴミ回収推進事業（香川県方式）により処分」

「底曳網漁船に海上タクシーを横付けし、真剣な眼差しで見学するレスキュー隊員」

◎　男木大井海水浴場にて体験学習第２段として、ICC 調査と海岸一斉清掃　午前１０時３５分開始

「隊員２名１組の５組１０名でＩＣＣ調査
（International　Coastal Cleanup）開始」

「5m四方（25 ㎡）ロープ内の全ての人工物のゴミを一旦ブルーシートに集積」

「世界ゴミ調査・データカードに種類毎に一つ一つ集計する隊員」

「長さ約 200m・幅約 30mの男木大井海水浴場、レスキュー開始」

「最後にサンポートと女木島を背景にレスキュー隊員ゴミゼロ祈念写真」

「ゴミ袋の山を自慢そうに、ハイ・ポーズ・ゴミひろったゾー！」

（回収した人工物漂着ゴミは約 60 袋／40ℓ袋・約２.４㎥・重量約６００kg）

回収ゴミは後日、高松市にて回収処分して頂きました。

◎高松市男木コミュニティセンターにて昼食後、「男木島（離島）における高齢者及び障がい者福祉の実情と今後の課題」と題して男木地区コミュニティ協議会　木場会長より、講話を聴講。

午後１２時４５分

「男木地区コミュニティ協議会　木場会長と質疑を交わすレスキュー隊員」

◎　公財）水島地域環境再生財団　磯部　作先生による海ごみ問題総合座学学習会　午後１時１５分開催

「午前中の体験学習を振り返りながら瀬戸内の海ごみ問題を判り易く解説する　磯部先生」

「講義を熱心に聞き入るレスキュー隊員の皆さん」

「レスキュー隊員も最後は国立公園をクルージング！“楽しい夏休みの１日でした”」

以上